

なぜ、そうじをするのか。

「トイレ」は、生徒にとって身近な場所であるが「きたない」「くさい」というイメージの方が強い。また、「そうじ」についても、当番だから、そうじの時間だからやるといった規則としてのとらえが強い。「トイレそうじ」となると、いやなイメージでとらえる生徒はさらに増えるだろう。

その一方で、トイレそうじが好きな生徒もいる。以前、一緒にトイレ掃除をした生徒だ。理由を聞いてみると、「トイレをピカピカにすることが楽しい、気持ちいい」という。トイレそうじが好きではないという生徒の心の中にも、「トイレがきれいな方が気持ちいい」、「よごれたところが美しくなるとすがすがしい」と感じる心はあるだろう。

「日本を美しくする会」の代表で、イエローハットの創業者でもある鍵山秀三郎氏と何度かトイレ掃除をしたことがある。鍵山氏に「なぜ、トイレ掃除をするようになったのか」と尋ねると、鍵山氏は、次のように言われた。

1. 心を磨くことができる

心を取り出して磨くわけにはいかないのに、目の前に見えるものを磨く。特に、人の嫌がるトイレをきれいになると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てくる。



2. 謙虚な人になる

どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一条件は、まず謙虚であること。謙虚になるための確実に一番の近道が掃除。

3. 気づく人になる

世の中で成果をあげる人とそうでない人の差は、無駄があるかないか。無駄をなくすためには、気づく人になることが大切。気づく人になることによって、無駄がなくなる。その「気づき」をもっとも引き出してくれるのが掃除。

4. 感動の心を育む

感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人が手と足と身体を使い、さらに身を低くして一生懸命取り組んでいる姿に感動する。特に、人の嫌がる掃除は絶好の実践。

5. 感謝の心が芽生える

人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、掃除をしていると小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれる。